

中間管理職としての副編集長

櫻 惇志 | 一橋大学



2022年4月より会誌副編集長に就任いたしました櫻と申します。これまでの会誌や本会とのかかわりや取り組みについては以前（本誌2021年3月号）MWG（会員サービス分野ワーキンググループ）主査退任のご挨拶¹⁾の折に述べさせていただいたのですが、2017年4月からMWG委員として、翌年からは会誌と新世代企画委員会の調整担当として活動させていただきました。本挨拶の執筆にあたり上記を改めて読み返したところ、末尾に「またどこかでご一緒することがあれば、どうぞよろしくお願い申し上げます」と書いていました。まさかこんなにも早くまた会誌関係者の皆様とご一緒できることになるとは思ってもいませんでしたが、引き続き編集長・副編集長・編集委員会メンバの皆様と一緒に会誌を盛り上げていくお手伝いができればと考えております。

五十嵐編集長とはこれまで新世代企画委員会にてずっとご一緒させていただいていたので、副編集長を打診いただいたときには、「これからも一緒に楽しく働けそう!」という軽い気持ちでお引き受けしました。しかし今になって改めて自分にできることはなんだろうかと思ましくもあります。加藤副編集長は会誌と長らく歩んでこられた方なのでこれからも地に足についたコメントで会誌が正しい方向に進むように上手く軌道修正されていくでしょうし、福地副編集長は斬新な発想でどんどん新しいこと・面白いことを提案されて会誌をぐいぐい牽引されていきそうです。いや、そもそも五十嵐編集長はお一人でも超人的な活躍をされているので……いよいよ自分にできることは何かあるのかと少し憂慮しております。

その中で、多少なりとも貢献したいと願っていること

は、つい最近まで企業に所属していた経験を活かして、企業研究者・技術者の方にとっても役に立つ会誌コンテンツを充実させることです。現在私が委員を務めている広聴マーケティング小委員会の主要な方針の1つは「企業技術者の方に魅力的なサービスを提供する」であり、本委員会とも連携しつつ進めてまいりたいと考えております。

もう一点、これまでの委員としての活動の中でとても印象に残っているのは、稲見前編集長の「編集委員としての活動を楽しんでほしい」という想いです。まずは自分にできることは何か模索するところからスタートだとは思いますが、編集委員会メンバや事務局の方に楽しく無理なく積極的に働いていただける環境を作っていきたいと思っています。

さて、ここまでに書いた内容を読み返したところ、調整役・連携担当や環境整備など、いわゆる中間管理職として働く道があるように思えてきました！会誌を手にとられる皆様に喜んでもらえるコンテンツをお届けするだけでなく、会誌にかかわる皆様が働きやすくなるように、精一杯貢献していきたいと考えております。

参考文献

1) 櫻 惇志：編集委員退任にあたって，情報処理，Vol.62，No.6，p.304（May 2021）。

（2022年3月3日）

■櫻 惇志（正会員） a222401b@hit-u.ac.jp

一橋大学ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター准教授。博士（工学）。2014年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。東京工業大学、(株)デンソーアイティールボラトリを経て、2022年より現職。情報アクセス技術に関する研究に従事。